

秋の三陸自然学講座／気仙沼・森と植物の観察会

特定非営利活動法人山の自然学クラブ
講師 石井誠治 報告 中村華子

日程：平成30(2018)年10月13日～14日 講師：石井誠治氏

参加者：会員5名 一般9名 ※14日は海べの森をつくろう会主催の観察会として実施

行程：13日 10時仙台駅に集合・出発～岡田地区等仙台市～閑上地区の海岸・海岸林を見学～古川・大崎方面に移動。有備館、岩出山城跡を見学～蕪栗沼へ。

14日 蕪栗沼観察～気仙沼へ移動。海べの森をつくろう会・現地集合のみなさんと観察会。

午前：徳千丈山、午後：岩井崎・波路上の活動地周辺で観察。現地解散～仙台へ・解散

2018年10月の三陸現地講座は、いわば二部(もしくは三部)構成の行事企画となりました。10月13日は仙台市～名取市の岡田新浜、荒浜、閑上地区付近の海岸を回って、海岸林の状況などを観察しました。午後は古川・大崎方面へ移動して、伊達家の居城だった岩出山城跡と城下にある有備館を見学、夕方には蕪栗沼でマガンなどのねぐら入りを観察しました。10月14日早朝、再び蕪栗沼へ。一斉飛び出しの観察をしてから気仙沼へ移動(蕪栗沼での渡り鳥観察会は別稿報告をご参照下さい)。気仙沼では海べの森をつくろう会と【森と植物の観察会～樹木ハカセ・石井先生と秋の森を探検しよう!】を実施しました。海べの森をつくろう会との石井さんの観察会は2015年から毎年1回行って頂いて、今回で4回目となりました。

～仙台市内も一望にする、見晴らしのよい仙台市若林区の海岸公園へ。冒険広場等が再整備され、2018年7月に再開したばかりです。冒険遊び場(プレーパーク)にはプレーリーダーが常駐していて、子ども達がのびのびと遊べるようになっています。デイキャンプ場にはバーベキューや芋煮会を行えるサイトがつけられています。たくさんの家族連れで賑わっていました。

その後閑上まで足を伸ばしました。日和山(閑上湊神社・富主姫神社)に登ってお参り。名取川の河口周辺を見渡すことができます。毎週日曜日には“ゆりあげ港朝市”が開かれ(2013年5月から再開)多くの人で賑わうことで知られています。この日もイベントが開催され、多くの人出がありました。

1. 仙台沿岸から大崎へ

10月13日午前中、仙台市～名取市の岡田新浜、荒浜、閑上地区付近の海岸を回って、海岸林の状況などを観察しました。貞山堀を見下ろし、海・太平洋

2. 伊達家居城・岩出山城跡と有備館

岩出山と有備館周辺は1591年に米沢から移り住んでから1601年に仙台青葉城へ行くまで伊達政宗の居城となっていたといいますが、その後も岩出山伊達家の屋敷として使われていたそうです。



仙台市若林区井土の海岸公園
プレーパークが整備されている



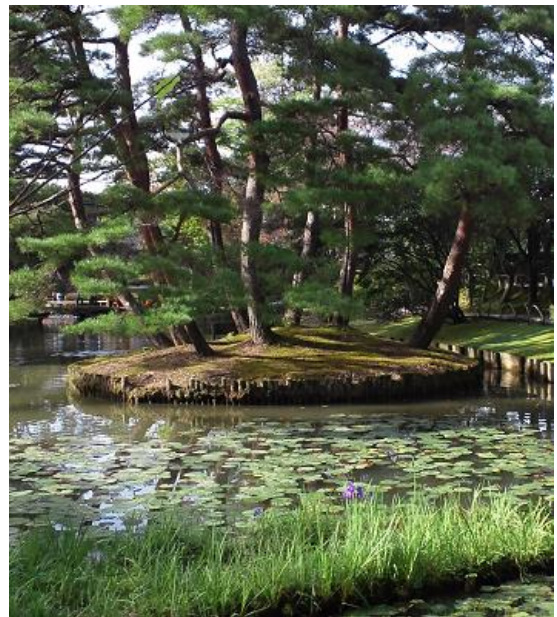
海岸公園から貞山堀と植栽済の海岸林を
見下ろす。周辺の津波高7m、遡上高は15m。



閑上の日和山
(閑上湊神社・富主姫神社)



有備館にて庭園の観察。庭の池に松の島が作られている。菌根と共生するマツだけが生育する、植物の特徴を理解した仕立て方だということ。水に浮かぶような姿が美しい。手前に植えられたカキツバタが二度咲きの花を咲かせていた。今年は様々な植物の二度咲きが報じられた。この日同じ庭ではツツジの花も見られた。

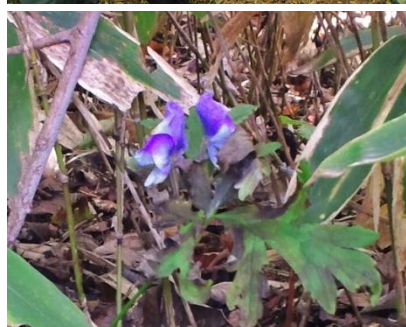


有備館の庭園は素晴らしいところです。石井さんオスメの理由がよくわかりました。大崎市の解説によると「岩出山城本丸の断崖を借景として池中に島を配した廻遊式池泉庭園」として説明されています。1715年ころから整備されたと考えられるそうで、長い年月丁寧に手入れされ、使われてきていますので、歴史を感じられる造作、植物がたくさん育てられ、守られています。

石井さんの案内でゆっくり庭園内を観察しました。人と植物の長い関係を感じさせてくれるたくさんの植物が歴史を思い起こさせてくれ、あたたかい気持ちにさせてくれます。庭、とはそういうものでもあるに違いないと思いました。

3. 気仙沼・徳仙丈山と岩井崎で「森と植物の観察会」

10月14日は気仙沼に移動して、海への森をつくろう会スタッフ・現地集合のみなさんと一緒に観察会を実施。周辺の植物と森の観察会です。この観察会は、海への森をつくろう会が現地のみなさんを対象に企画する生涯学習活動に、プログラムを提供して、行っている観察会です。午前中は、徳仙丈にて森の観察会です。何度か来ているこの森ですが、季節が変わるとみられるものが変わりますので、何回来ても新鮮な気持ちです。溪流沿いの明るい森で、気持ちのよいハイキングでもあります。カエルを見つけたお子さんが張り切って捕まえていました。みなさんも楽しく秋の植物を観察されていました。トリカブトの花に「おいしそうだねえ」の感想も。





午後は岩井崎で植物の観察をしました。もともと岩井崎には立派なマツが生育しています。その中に、海べの森をつくろう会が2015年11月にクロマツの植樹をしています。植栽したマツ苗の状態なども観察しました。岩井崎は石灰岩の岬であり、土壌が発達しているわけではないので、植樹の時に使ったような大きな苗を植栽しようとしても、あまり大きな植え穴は掘れません。倒れてしまっている苗もありましたが、実生など、元気に育つ稚樹も見られます。育ち具合の違い、その理由についても、石井さんからお話を伺いながら考えてみました。みなさん、ご自分たちで植えた体験をしているので、話を聞いて納得がいくようです。

岩井崎では、足下でコハマギクがきれいな花を付けています。周囲にはハマギクもたくさんあって、ちょうど見頃でした。大きく目立つ花が特徴的で、どちらも三陸復興国立公園の指定植物に指定されています。ハマギクの仲間は通常、白い花をつけますが、この日も少し色のついた花も見つかりました。石井さんがよく説明して下さるように、日本では変わった見た目のもの（斑入りや八重咲き、垂れる枝など）が見つかったらその個体を育てて増やしていく、と話されますが、このような自然界での観察が、豊かな植物とのつきあいを育んでくれるのだと思います。海べの森をつくろう会でも岩井崎などから採取



したハマギクを育て、増やしています。活動地に昨年植え替えた個体が今年はきれいに花を咲かせてくれました。海岸での工事が終わったら植栽して、海べに彩りを取り戻したいと思います。ハマギクは *Chrysanthemum (Nipponanthemum) nipponicum*、コハマギクは *Chrysanthemum yezoense* で、*nipponicum* は日本の、*yezoense* は蝦夷の意です。どちらも三陸の海岸で大切にしたい植物です（学名には議論あり）。

この日は、工事中の周辺の海岸の変化なども観察し、海べの森をつくろう会の事務所・活動地周辺でもいろんな植物などを観察しました。

今回も、ご協力いただいたみなさまのおかげで、忙しくも楽しい、盛りだくさんの2日間を過ごすことができました。観察会を実施して下さった海べの森をつくろう会のみなさま、参加して下さったみなさま、そして指導して下さった石井誠治さん、ありがとうございます。また次回も、楽しい観察会をできたらと思います。

